

学校教育目標	【知】自ら課題を発見し、考えを深めながらよりよく解決していく子を育てます。	【問題解決力、関心・意欲・態度】
	【徳】自分も身近な人も大切に、思いやりのある優しい心をもつ子を育てます。	【人権尊重、あいさつ、思いやり】
	【体】体を鍛え、自他の生命や体を大切にすることを育てます。	【生命尊重、自己の体力づくり】
	【公】自分と身近な人・もの・ことにかかわり、集団の一員として役に立とうとする子を育てます。	【社会参画、他者への貢献、自尊感情】
	【開】自分から様々な人とふれ合い、共に生きていこうとする子を育てます。	【コミュニケーション、共生、他者理解】

学校概要	創立 49 周年	学校長 齋藤 千枝	副校長 榮谷 智之	2 学期制	一般学級：17	個別支援学級：5
	児童生徒数：526 人	主な関係校：谷本中学校、谷本小学校、つつじが丘小学校、さつきが丘小学校、緑が丘中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	谷本中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<言語活用能力> <コミュニケーション能力>	谷本中学校 谷本小学校 つつじが丘小学校 藤が丘小学校 さつきが丘小学校	笑顔であいさつ～自分を認め 相手を認め～  ○人・もの・こと の関わりを通して豊かなコミュニケーション力をもつ子ども○人と豊かに関わり、自他を認めながら共に学ぶ子ども (具体的取組) ブロック小・中学校の朝会等で「笑顔であいさつ」の児童生徒への周知、小中合同教科領域研修会、児童生徒交流日、部活動体験、中学校吹奏楽部の演奏鑑賞等。

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら「主体的・対話的で深い学び」を充実させます。 ・1年目は学ぶ楽しさを実感し、個別最適な学びを大切に授業づくりを実践します。 ・2年目は探究的な学習や体験活動などを通じ様々な方と関わり合いながら「協働的な学び」を充実させます。 ・3年目は個別最適な学び、協働的な学びを一体的な充実を図り、自分の考えを深め伝え合う力を伸ばしていきます。 ○「人」とのつながりを大事にし、豊かな体験を通してながら、自分たちのまち、そして地球を大切にすることを育てます。 ○体づくりや食育、保健指導等を通して、自分の健康に関心を持ち、自他を大事にする心を育てます。 ○一人ひとりの人権を尊重し、豊かな心の育成を目指します。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①日々の授業を大切に「藤小共通指導力ガイドライン」(経営計画巻末掲載)を基盤として、それぞれの教員が自分の持ち味を生かしながら、新教育課程をにらみ、問題解決的で対話的、主体的な学びを実践できるようにし、全ての児童が安心して学べる環境にする。 ②重点研究(任意の教科、個別最適な学びと協働的な学びの一体化)を通して日常的に授業を見合い、【資質・能力】を育てる学校教育目標に迫ることのできる授業づくりに協力して取り組んでいく。教職員の自主性を重んじた研究を推進する。 ③言語活動をより取り入れた授業展開を共有し、コミュニケーション能力を育成する。
担当 重点研究部会	
徳 道徳教育 人権教育	①ペア学年、児童会、学級活動等を通し、「一人一人の考えの違いを認め合える仲間づくり」を支援し、協働しようとする態度を育てる。 ②道徳科と各教科領域の関連を強め、子ども一人ひとりが「自分ごと」と感じ、価値の自覚がもてる道徳科の実践を行う。 ③「藤が丘小学校いじめ防止基本方針」の共通理解を確実にし、事業発生時に迅速かつ組織的に取り組む。 ④児童アンケートと面談を全校で行い、子どもの僅かな変化についても見逃さない体制をつくる。
担当 人権・特別支援教育部会	
体 健康教育 安全教育	①保健領域の担任・養護教諭の授業連携をさらに深める。 ②安全な環境を整え、児童が自ら安全に行動できる資質能力を育む。
担当 健康・安全・環境部会	
公開 社会に開かれた教育 探究的課題解決力	幼保小連携推進地区として交流行事や小学校でのスタートカリキュラムの充実を図る。校舎内にある保育園と合同で避難訓練をしたり、1年生や5年生と様々な形で交流したりしていく。0～5歳での豊かな体験の積み重ねを小学校での学びや生活に発展させていくという視点を大切にする。 総合的な学習の時間では、環境問題や交通安全、人権、福祉、食育をテーマに興味をもったことを探求しながら活動している。ハマッコ未来カンパニープロジェクトを通して、地域・企業・大学等との連携を図り、本物と触れ合う体験を大事にする。
担当 生活・総合部 各担任	
いじめへの対応	各教科や行事等で、お互いを理解し、認め合うことを基盤にしながら学習を進められるようにし、共同の学びを重んじて人権意識を根付かせるようにする。未然防止、早期発見、初期対応を組織で行えるよう、児童支援専任を中心に、子どもの様子に常に気を配り、情報共有をするとともに、保護者との連携も密にしながら日々の教育活動を進める。「藤が丘小学校いじめ防止基本方針」に基づき、迅速かつ組織的な対応を確実に実行する。
担当 人権・特別支援教育部会	
人材育成・ 組織運営(働き方)	DXを推進し、会議や事務作業の効率化を進めるとともに、それぞれの役割や目的意識を明確にすることで、主体性を促す。その上で、授業改善のための教材研究・学年研の時間を十分に確保していく。特に、メンターチームの取り組みについては、主幹教諭や教科主任が積極的に関わり、日頃の課題について共に考えていけるようにする。
担当 教務部 メンターチーム	
地域学校協働活動	地域コーディネーターと担当職員で定期的に集まり、ボランティア活動(朝の読み聞かせ、放課後の学び場など)の情報交換を行い、地域と学校で連携・協働しながら進めていく。また地域の人材を授業に関わらせていただくことで、学校と地域の繋がりをよりいっそう深めていく。
担当 藤小応援団	
特別支援教育	組織で、支援体制を共有し、外部機関との連携をふくめ、取り出し(フジペン)やTTなど、あらゆる可能性について迅速に対応できるようにする。教室掲示や授業の進め方など、ユニバーサルデザインの有効性を共有する。「ことばの教室」においては、専門性を生かし、保護者・児童の困り感に寄り添う指導をきめ細かく行うとともに、そのスキルを一般学級の指導や支援にも広げていけるようにする。
担当 人権・特別支援教育部会	
児童生徒指導	児童指導や児童理解を全職員で共有し、専任を中心とした児童指導の組織化を進めていく。学年主任を中心として児童指導を行い、必要な状況に応じて専任が関わる体制を維持・継続していく。学校生活のあらゆる場面において活躍する児童を賞賛し、自尊感情を高め、児童が持っている良さを引き出していき、「ひびき合い ともによりよく生きる」という学校教育目標を常に意識させる。
担当 人権・特別支援教育部会	
多文化共生	国際教室や国際理解の授業を中心に、世界の異文化への知識を深め、お互いの違いを認め合い、尊重し合う姿勢を目指すことを通して、誰もが安心して過ごせる学校、地域を創造していく。
担当 人権・特別支援教育部会	